

夏秋トマトの裂果・裂皮対策マニュアルの作成・配布

農業研究部

1. 研究の背景

夏秋トマト産地では、近年、盛夏期の高温条件下で裂果・裂皮の発生による収量低下が大きな問題となっている。そこで、土壌水分の変化（過剰な吸水による急激な肥大）や高温、強日射（果皮の硬化）等の要因分析を行い、総合的な裂果・裂皮対策技術を考案して対策マニュアルを配布した。



裂果



裂皮

2. 研究成果の内容・普及のポイント

夏秋トマトの総合的な裂果・裂皮対策として、①日射（紫外線）を遮る、②果実温を上げないこと、③過剰な肥大をさせないこと、の3点を考慮した下記の対策をマニュアル化した。

紫外線（UV）カットフィルムの使用

へた周辺のコルク層の形成や果実表面の細かなひび割れを抑制する。



非UVカット

UVカット

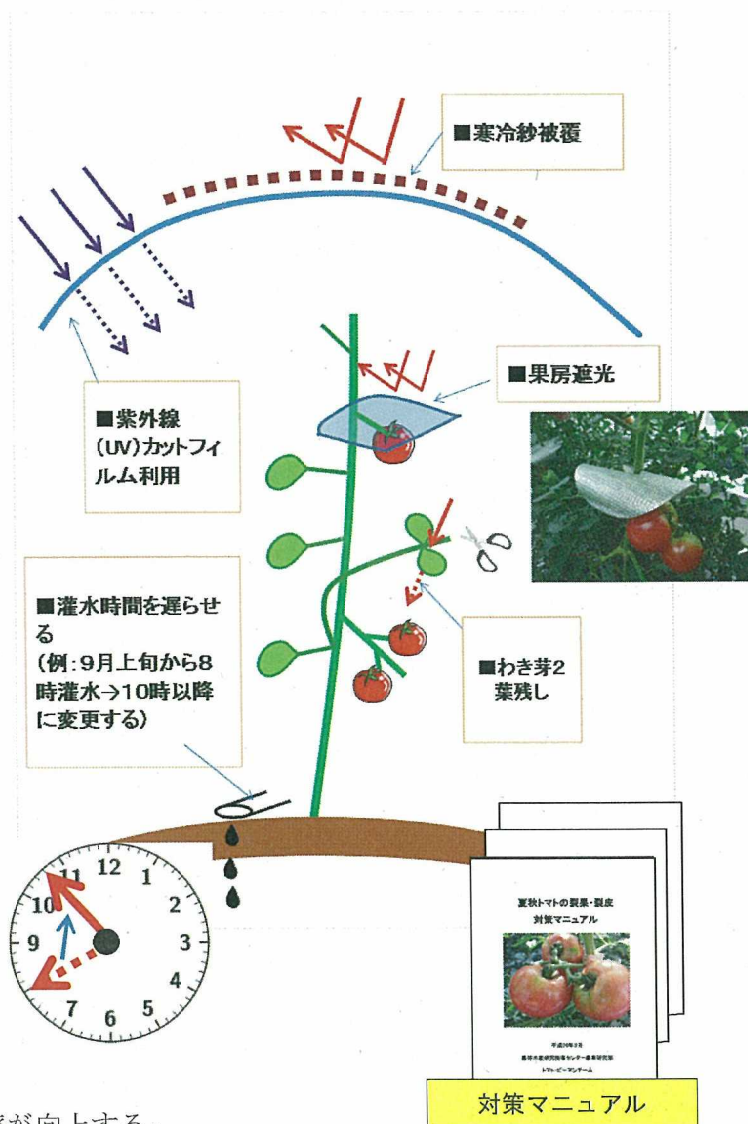
遮光による果実温を下げる

果実温度を下げ急な肥大を抑制する。

- ①遮光率20%程度の寒冷紗利用
- ②わき芽2葉残しによる遮光
- ③果房遮光

灌水時間を遅らせる

夜温が低下する時期が来たら、朝の灌水時間を遅くし、急な肥大を抑制する。



3. 期待される効果

- ・裂果・裂皮率が減り、収量・秀品率が向上する。
- ・特に裂果率が高い「赤採り」トマトの生産拡大につながる。

4. 担当機関連絡先

農業研究部 トマト・ピーマンチーム
TEL: 0974-28-2081
住所: 豊後大野市三重町赤嶺2328-8